

## 新年に世界平和を祈る

～第12次カンボジア難民救援医療班日本班長の経験から～

社会医療法人 緑社会 金田病院 金田 道弘

姫路赤十字病院外科に勤務していた1984年、赤十字国際委員会（ICRC・本部ジュネーブ）・第12次カンボジア難民救援医療班日本班長として、タイ・カンボジア国境にあるカオイダン難民キャンプに併設されたICRC外科病院に3ヶ月間派遣された。指名された先輩が行きたくないと辛がっている姿を医局で見てこれはチャンスだと考えた。医師としての経験10年以上が条件だったが、医師になって5年目・29歳の私は無謀にも自分自身が書いた熱い推薦状を持って病院長に直接志願した。父は太平洋戦争中、海軍軍医として長男ながら南方の最前線を志願していた。

医療チームはベルギーをはじめとするヨーロッパ各国からの約20名と日本からの4名（外科医・麻酔科医各1名、病棟看護師・手術室看護師各1名）から成る国際チーム。公用語は英語。職種毎のローテーションのため日本人チームとして業務することはなかった。手術件数は平均1日18件、3ヶ月間で1800件に達した。手術はすべて外科医が1人で行い、まれに難民が助手を務めてくれた。麻酔は麻酔科医が行なった。当直は、外科医1名、麻酔科医1名、看護師2名で行った。5回の当直を含む3週間の連続勤務の後に1週間の休暇、というサイクルを3ヶ月間繰り返した。最初の1ヶ月間で体重が10キロ減り、奥歯が1本突然崩れた。

病院といっても実にお粗末なもので、屋根はトタン、壁は竹を編んだもの、床はコンクリート、ベッドはベニヤ板にゴザを敷いただけ。病室は古い体育館のような感じで、手術室の中

にもハエが飛んでいた。外傷の手術後数日して包帯を開けて見るとウジがわいていることもしばしばあった。破傷風やマラリアも発生した。可能な検査は単純レントゲンと血算だけ。電話もネットもなく日本の医師に相談することは一切できなかった。

併設の難民キャンプに4万人いたカンボジア難民の救援が主目的だったが、カンボジア国境から6キロしか離れておらず、実際はカンボジア内戦で負傷した若い兵士が国境を越えて救急車で1度に4名ずつ多数搬送されてきた。最も多かったのは地雷による下肢の外傷と銃創だった。隣町で聞く花火の音のような爆発音が病院までよく聞こえてきた。

大きな衝突のあった6月のある日には、1日に新入院が55名以上、手術は1日に45件以上、午前7時から深夜3時までには及んだ。4名の外科医の中で最も若かった私はほとんど手術室にいた。国境地帯で唯一の病院であり救急車を断ることは絶対にできなかった。

複数の負傷者が同時に搬送されると、まず額や前胸部に太いマジックで3桁の数字を大きく記した。これがカルテ番号になった。最も年長のベルギー人外科医がトリアージを行なった。下肢の地雷による損傷のように、重症で緊急手術を要する患者はレントゲン後直ちに手術室へ運んだ。一方頭部の銃創で瀕死の人や、逆に腕を弾丸が貫通した程度で直ちには生命に関わらない人は病室に運んだ。滞在した3ヶ月間に下肢の切断が30件あり私が20件執刀した。中には地雷で砕けた自分の足の骨が身体中に刺さり内臓を損傷した人や、頭部や四

肢を弾丸が貫通した人もいた。弾丸により激しく損傷した眼球を摘出したこともあった。

最も苦勞したのは夜間の帝王切開だった。すぐ近くに国境なき医師団（MSF）の助産施設があったが、フランス人の助産師だけで産婦人科医師はおらず ICRC の外科医が帝王切開手術を担当していた。国境沿いに約20キロ離れた宿舎から応援の医師が夜間駆けつけることは安全上も不可能だった。誰も他の外科医がいない夜間に手術を私が1人で行い、麻酔科医はイギリス人、外回りの看護師はフランス人という具合だった。日本で事前に産婦人科の帝王切開手術の第2助手に入って勉強していたが、執刀することはもちろんなかった。深夜に外国人に囲まれ英語で指示を出しながら

ら生まれて初めて1人で行った帝王切開のことは忘れることはできない。3ヶ月間に私が執刀した夜間の帝王切開が4件あったが、幸い8名の母児共に全員順調に回復した。

今になって振り返ると、35年前私は結婚1年目の妻と生後1ヶ月もたっていない長女を残して3ヶ月間日本を離れた訳であり、本当に申し訳ないことをした。無事帰ってくるかどうか不安で心細かったであろう中を良く耐えてくれたと思う。4年前にその長女が落合病院で帝王切開で第一子を出産した。4歳になった無邪気な孫を見ると、今でもあの病院で出会った悲しい表情を湛えた難民の子供達を思い出す。元気で生きていることを願いつつ。

新年にあたり世界平和を心から祈りたい。



仲が良かったベルギー人看護師



病室の様子(点滴ボトルは尿瓶、蚊帳はハエよけ)



負傷者を4人同時に搬送できる救急車



地雷による四肢外傷にマラリアを併発(兵士)



地雷による両下肢切断(兵士)



弾丸が後頭部を貫通(兵士)



手足熱傷の女の子(難民)



膿瘍を切開した姉と涙を流す弟(難民)